

## 第1回京都市環境保全活動センター指定管理者選定委員会摘録

### 1 日時

令和2年7月27日（月）午後1時30分～午後3時

### 2 会場

京都市役所分庁舎 第2会議室

### 3 参加者

選定委員：阿部 健一 氏（総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター教授）  
一原 雅子 氏（市民公募委員）  
内山 淳子 氏（佛教大学教育学部 特任准教授）  
和田 泰裕 氏（税理士）

事務局：環境政策局環境企画部環境総務課 宮本課長，森田係長，藤村  
本 市：環境政策局地球温暖化対策室 矢野課長，中川係長，嶋津  
傍聴者：1名

### 4 議題

- (1) 選定委員会の委員長及び副委員長の選任
- (2) 指定管理者募集要項の審議

### 5 議事の要旨

#### (1) 委員会の成立の確認

京都市環境保全活動センター指定管理者選定委員会設置要綱（以下「設置要綱」という。）第5条第3項に基づき、委員の過半数の出席があるため、会議の成立を確認した。

#### (2) 委員長、副委員長の選任について

設置要綱第4条第2項に基づき、委員の互選により、阿部委員が委員長に、委員長の指名により、内山委員が副委員長に選任された。

#### (3) 京都市環境保全活動センター指定管理者募集要項について

募集要項の内容について議論を行い、委員の意見を踏まえ、事務局で修正案を作成し、委員長の了承を得たうえで募集要項を確定することとした。

主な質疑・意見は、下記のとおり

### 記

阿部委員長： 審議に当たり、まず他の委員の最近の京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センターの愛称。以下「エコセン」という。）についての感想を伺いたい。

和田委員： コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響で多くの展示物が触れない状態であり、来館者が退屈そうにしている印象を受けたので、残念であった。

阿部委員長： コロナ対策は、市から指定管理者へ指示しているのか。

本 市： 京都府が示す方針の下、京都市と現在の指定管理者と共同でガイドラインを作成し、それに基づき、施設や展示物等の使用を一部制限したり、会議室等の施設の貸し出しについては、国のガイドラインの下、定員を半分に制限したりしながら業務を行っているところである。また、現況を見ながらの随時の対応となっている。

阿部委員長： 仕様書にはコロナ対策に特化した項目は見られないが、指定管理者と共にガイドラインを作成しながらの対応となるのか。

本 市： ガイドラインを作成することに加えて、募集要項の審査項目に記載のとおり、感染症対策を盛り込んだ事業計画を審査項目としたいと考えている。

内山副委員長： エコセンを最近訪問したところ、図書館が賑わっていて、気楽に立ち寄れる雰囲気であった。また、毎度ボランティアが熱心に動かれている姿が印象深い。

仕様書にも記載されている人材育成について、現在、エコセンの館内にエコ学区サポートセンターを設け、小学校との連携が時々見受けられるが、どのような仕組みで連携が行われているのか。

本 市： エコ学区において小学校と連携したエコな取組が実践されているが、エコ学区事業は、今回の指定管理業務とは別事業である。

一原委員： エコ学区か小学校かどちらの影響か定かではないが、小学生の娘もいつからか、ごみに関する知識を身に着けていた。また、小学校における取組では他に、気候ネットワークが京都市の委託で行っているエコライフチャレンジというものもある。小学生に対しては、そういったエコに対する素地があると思うが、これらが相互に連携して、シナジーを生み出せばもっと効果的なものになるのではないかと考えている。

今回の募集要項にも盛り込まれている感染症対策について、コロナは自然環境への人間の侵食が度を越したことで招来されたという見解が支持を集めつつあるところであり、この考えから、単純に感染症対策を取るのではなく、自然を尊重する考えとともに感染症対策を取れる管理者が応募していただきたいと思う。

エコセンのような環境学習施設は、国内のみならず世界でも類似施設は多くあるので、他の施設との連携により、エコセン自体がグローバル化し、来館者もグローバルな視点を持つような施設になればと思う。

エコセンは小学生以下が楽しめる施設のイメージがあるが、関心を持って学びの機会が少ない中高生向けの施設であっても良いと思う。中高生向けの展示やイベントを増やしていただければと考える。

阿部委員長： コロナを考えることは環境を考えることにつながっていることは自明で、コロナ対策は環境問題のリハーサルという研究者もいる。コロナ対策を単なる感染症対策とするのではなく、新しい生活様式の中でどのように豊かさを求めていくか、エコセンでは環境問題と絡めてぜひこのことを発信していただきたい。

本 市： コロナの原因が特定されていない中で難しい問題ではあるが、コロナ以外でも感染症については地球温暖化が一因であることは間違いないので、当室の啓発事業において、御意見いただいた観点を参考にさせていただきたい。中高生向けの啓発についても、小学生と比べると確かに少ないので、同様に、他の事業の中で取り入れていけたらと考えている。

阿部委員長： 人材育成について、仕様書の中で「大学のまち京都」と謳っているが、言うは易しで、な

かなか難しいところではあるが、高校生や大学生が小学生に環境問題を授業すると彼らの理解が深まるという興味深い事例もあるので、参考にしていきたい。

阿部委員長： 国内連携については、事務局から何か御意見あるか。

本 市： 仕様書に記載のとおり、環境活動拠点としての機能向上を図るため、他都市との連携や大学生との連携を求めている。選定についてはこの観点も見ていただきたい。

内山副委員長： 学内イベント等で、大学生のサークルが、リユース・リサイクル活動をしているのを見かける。取っ掛かりとして、このような関心を持っている学生から連携していくのは良いと思う。

一原委員： 次期指定管理期間には、現在審議中の改正地球温暖化対策条例が施行されるため、次期指定管理者は、そのことを理解しておく必要がある。また、同様に、2050年までに二酸化炭素排出量正味ゼロを理解し、それを推し進められる事業者かどうか重要な観点になると思う。

本 市： 条例の改正内容は指定管理者の募集段階では定まらないが、改正後の条例や改定後の計画の内容に関わらず、2050年二酸化炭素排出量正味ゼロの実現に向け、今回新たに、仕様書に環境保全の促進のための研究、調査等を盛り込み、エコセンという場が有する利点を活かした成果を期待したい。

内山副委員長： 人材育成という点で、エコセンは特に子どもに対して力を入れている印象があるが、仕様書では、小・中学生に対しては副読本の作成の項目のみ、大学生に対しては大学生への環境活動支援の項目のみにしか言及されていないため、各世代に対して環境教育を行うという文言を仕様書に記載し、人材育成がより推進されるべきでは。

阿部委員長： エコセンの特徴を記載するという意味でも、その内容を仕様書の施設の運営理念に端的に記載するのはいかがか。

内山副委員長： この箇所に記載することで、全体に係ってくるので非常に良いと思う。「あらゆる主体による、ライフスタイルや経済活動、学習活動…」というように学習活動を追記するとエコセンの特徴が表せると思う。

阿部委員長： 募集要項は、当該箇所の修正だけを行うことで御了承いただけるか。

全 委 員： 異議なし。

#### (4) 次回委員会の非公開について

委員長からの提案により、次回の委員会は、選定のため、応募者の財務情報等を取り扱うこと、審査の公平性の観点等から、設置要綱第7条に基づき、非公開で行うこととした。